

磐城、甲子園へ



交流試合実施が決まり、練習のために走り出す磐城ナイン=10日午後4時30分ごろ、磐城高

選抜32校
交流試合

8月に1試合

日本高野連は10日、ウェブ会議による理事会を開き、8月に兵庫県西宮市の甲子園球場で「2020年甲子園高校野球交流試合(仮称)」を開催することを決め、発表した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止になった今春の第92回選抜高校野球大会の出場校に選ばれていた磐城など32校を招待し、各校が1試合ずつを行う。現時点では無観客が原則。

来月18日抽選会

日程は8月10～12日と15～17日の計6日間。雨天の場合は順延する。出場校が参加しての開会式は実施しない。対戦カードは7月18日が決定。4月からは1年生12人が入部して夏へ向けて始動したが、5月20日に夏の全国高校野球選手権大会も中止となり、県高野連が主催する代替大会に向

磐城は昨年10月の秋季東北大会で8強入りし、21世紀枠として1974(昭和49)年以来46年ぶりの選抜高校野球大会(センバツ)出場を決めた。しかし、感染症拡大の影

日に各校主将によるオンライン抽選会で決定する。

選抜大会は3月に史上初の開催中止が決定。その際に日本高野連の八田英二会長は「何らかの形で甲子園に来ていただけたら。あるいは(球場の)土を踏ませてあげたい」と出場校への「救済措置」を検討する意向を示していた。例年であれば、甲子園球場では8月に全国高校野球選手権大会が開かれているが、新型コロナウイルスの影響で夏の甲子園大会と出場権を懸けた地方大会が中止になった。各地の都道府県高野連では、夏の地方大会に代わる独自大会を開催する動きが出ている。

21世紀枠、磐城46年ぶり

止が決定。4月からは1年生12人が入部して夏へ向けて始動したが、5月20日に夏の全国高校野球選手権大会も中止となり、県高野連が主催する代替大会に向

32人で、うち選手は29人。



校歌を歌い夏の甲子園へ向け気持ちを一つにする
磐城高の選手＝4月2日



最後のノックをする木村保嗣監督左
＝3月30日

センバツ中止から一転

憧れの舞台へ

磐城、8月に甲子園



渡辺純監督㊨が見守る中、筋力トレーニングに励む
選手＝4月2日



④21世紀枠で選抜出場決定が決まり、帽子を高く放り投げて喜ぶナイン＝1月24日



⑤メッセージが書かれた応援幕を受け、士気を高める部員
＝2月26日